勅授

立案 昭和七年三月四日
決裁 昭和 年 月 日

爵位課長

宮内事務官

宗秩寮總裁 承知

故海軍軍醫中將子爵寳吉安純
位階追陞ノ件

昭和七年三月三日裁可 三月一日達
臺帳記入三月四日 官報報告濟

昭和七年三月三日

宮内省

爵位課 庶務課

245

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

故海軍軍醫中將子爵賀吉安純
位階追陞ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク
昭和七年三月三日
内閣總理大臣犬養毅

宮内省

宗秩寮総裁
宮内省書記官
宮内省書記官
宮内省書記官

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

海佐第四六號

起案 昭和七年三月二日 裁可 昭和七年三月二日 決定 昭和 年 月 日 施行 昭和 年 月 日

内閣總理大臣 [illegible]

内閣書記官

内閣書記官

故海軍軍醫中將從二位勲二等功二級子爵賓吉安純ハ別紙海軍大臣奏請ノ通功績顯著ナル者ニ候處本月一日死去ノ趣ニ付特旨ヲ以テ左ノ通位階追陞ノ件上奏相成然ルヘシ

内閣

故海軍軍醫中將從二位勲二等功二級子爵賓吉安純

特旨ヲ以テ位一級追陞セラル

從二位勲二等功二級子爵賓吉安純

叙正二位

三月一日付

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

叙正二位 故海軍軍醫中將從二位勲一等功二級子爵實吉安純

實吉海軍軍醫中將ハ海軍奉職以前既ニ戊辰ノ役ニ參加シ奥羽各地ニ轉戰シ戰功アリ明治四年始メテ海軍ニ入リ爾來身ヲ軍籍ニ置クコト實ニ三十有四年殊ニ明治十八年以來始ント中央當局トシテ醫務關係ノ諸要職ニ歷任シ海軍軍醫學校長、海軍中央衛生會議議長ヲ經テ明治三十年海軍省醫務局長ニ補セラレ退職ニ至ル迄醫務ノ中樞ニ長タルコト實ニ十三年此ノ間日清ノ役ニ際シテハ屢々戰地ニ往復シ戰時ニ於ケル醫務衛生上ノ視察ヲ重ネ貴重ナル實視ニヨリ軍陣衛生等ノ諸計畫ニ實施ニ貢獻セル所偉大ナルモノアリ又日露戰役ニ際シ大本營海軍軍醫務部長トナルヤ其ノ豐富ナル經驗ト卓識トヲ以テ克ク戰時ニ於ケル醫務衛生救護ノ施設ニ傷病者救護ノ對策ヲ樹立シ徹ニ入リ細ニ盡シテ其ノ大任ヲ全ウシタルカ如キハ敍説ヲ要セザル所ナリ他方我カ海軍ノ平時醫務衛生ニ關シテハ其ノ斬新該博ナル斯道ノ知識ニ圓滿懇篤ナル人格トハ出テテハ軍醫界ニ於ケル教育、診療ノ諸施設改善セラレサルナク入リテハ後進ノ指導

誘掖ニ盡瘁シ以テ海軍軍醫界ノ發展ハ勿論海軍今日ノ醫務衛生諸施設ヲ完成シタル功績ノ重且大ナルハ戰時ニ於ケル功績ト並ヒ稱セラルヘキモノニシテ我カ海軍軍醫界ノ元勲タリ　明治三十八年十二月豫備役ニ編入セラルヤ貴族院議員ニ勅選セラレ今日ニ至レルハ勿論赤十字社常議員トシテ社務ニ參與シ公共事業ニ盡シ又海軍軍醫會ノ指導發展ニ努力セル等其ノ功績愈々大ニシテ完キモノニ有之候處不幸今回病ヲ得テ八十五歳ノ高齢ヲ以テ昨三月一日死去仕候ニ付テハ特ニ頭書ノ通位一級被進度

右

謹ミテ奏ス

昭和七年三月二日

海軍大臣大角岑生

海軍

249

貴族第五八號

昭和七年三月二日

貴族院書記官長　長　世　吉

内閣總理大臣犬養毅殿

上申

貴族院議員海軍軍醫中將從二位勳一等功二級醫學博士子爵實吉安純

右者本月一日薨去致候處同議員ハ別紙履歴書記載ノ通リ慶應三年藩命ニ依リ京都守衛隊附醫師トナリ明治五年海軍出仕ヨリ海軍軍醫副ニ任シ爾後同中軍醫ヲ經テ現官ニ累進ス、其ノ間軍醫察學舍長、海軍衛生會議議長、海軍軍醫學校長兼教官、警察醫長、東京避病院長、醫學校事務主任、東京慈惠院次長、海軍省醫務局長、大本營海軍醫務部長等ニ歷任シ、明治十年、同廿七八年、同廿三年、同廿七八年ノ各戰役ニ從軍シテ專ラ傷病者醫療ノ任ニ當レリ、又他面醫事、衛生保健ニ關スル諸種ノ委員長、委員タリシノミナラス英、佛、獨、墺及露ノ諸國ニ差遣セラレ、巴里萬國醫事會議ニ參列セル等廿有八年ノ久シキ間軍隊ニ於ケル保健竝ニ醫療事務ニ盡瘁シ而モ其ノ主腦部トシテ克ク之カ統率指導ノ重任ヲ全フセルノ功績寔ニ大ナルモノアリ。

明治廿八年十二月本院議員ニ勅任セラレテ以來茲ニ廿有七年ノ間或

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ハ軍人恩給法中改正法律案、獸疫豫防法中改正法律案、會計檢査院法中改正法律案、煙草專賣法中改正法律案、盲人保證法案外一件（副委員長）染料醫藥品製造法案（副委員長）、戰時海上再保險法廢止法律案（副委員長）、朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案（委員長）、傳染病豫防法中改正法律案（委員長）、水先法中改正法律案、藥劑師法案、獸醫師法案、衞生組合法案等ノ重要ナル法律案ノ特別委員長、副委員長若クハ委員ト成リ屢々豫算、決算、請願、資格審査等ノ常任委員トナリ多年蘊蓄セル學識ト經驗トヲ傾倒シテ愼重審議克ク協贊ノ任ヲ盡シ以テ我國憲法政治ノ運用ニ貢獻セルノ功績甚ニ顯著ナルヲ確認致候間此ノ際特ニ位勳陞敍ノ恩典ニ浴セシメラルル樣御詮議相成度此段上申候也

追而海軍省ヨリモ同議員ニ關スル功績書提出ノ筈ニ有之候

貴族院

履歴書

東京府華族

海軍軍醫中将従二位勲等功二級賞 吉安 純 子爵

嘉永元年三月二十日生

光ギニ藩命ヲ以テ醫學修業トシテ京都表某ノ門ニ遊ブ 于茲戊辰ノ乱ニ際シ東征西征ノ兵ニ附属シテ正月二日鳥羽ニ出軍シ岩千ノ疾士ヲ療ス四月ヨリ外城一番隊ノ附属トナリ六月五日北越ニ出軍ス 蓋シ越後口ノ二番手ナリ先ヲ長岡ニ到着シ翌日與板ニ出張シ續テ出貢寄口ニ陣スルコト一ヶ月許七月下旬相寄ヨリ海路ヲ進テ佐渡ニ渡リ松ヶ崎ニ着ス爾来沼垂ニ進軍シ新潟戰事ノ創者ヲ醫ス又新発田ニ至リ津川口及其他ノ疾兵ヲ療ス九月上旬米澤口ニ進ミ

海軍

同中旬米沢ニ入リ是ヨリ越後口先鋒ノ兵ニ附属シ会津表ニ進撃シ庄内ノ賊ト交戰アリ次テ清川ヲ沿テ鶴岡ニ至リ賊徒平定スルノ后國ニ帰ル實ニ戊辰十月ナリ

是ニ於テ二等軍功禄ヲ拝領ス

翌己巳ノ春更ニ醫術修業ノ藩命ヲ拝シ東京表ヘ走

附属シ函館ノ賊未平治セサルヲ以テ同五月進討ノ藩兵ニ

只管醫業ヲ修ス

明治五年 十一月十四日 任海軍軍醫副

仝 七年 三月十日 任海軍中軍醫

仝 九年 八月三十一日 任海軍大軍醫

仝 十一年 六月三日 任海軍少醫監

仝 二十八日 鹿児島逆徒征討ノ際盡力不少候ニ付勲五等ニ叙シ

不二納

美濃全紙十三行罫紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

仝 十二年	七月十八日	年金百圓下賜候事
仝 十八年	十月十九日	依願免本官 醫學修業トシテ英國留學ヲ命ス 明治十八年九月二十二日退朝
仝 十九年	四月二十九日	任海軍軍醫中監
	五月二十六日	補海軍醫學校教授兼監事
	仝 日	兼任警察醫長
		敍奏任官三等
	七月十三日	軍醫中監ハ軍醫大監奏任二等ト被定
	十一月二十七日	中央衛生會委員ヲ命ス
仝 二十二年	四月二十二日	補海軍々医學校長兼海軍中央衛生會議々員
	仝 二十五日	兼補海軍々医學校教官
仝 二十四年	八月二十四日	醫學博士ノ學位ヲ受ク
仝 二十五年	三月二十二日	海軍大演習總指揮官附軍醫監被仰付
	八月六日	任海軍々医總監

海軍

	八月六日	補海軍中央衛生會議々長
	十一月十二日	軍醫總監ハ高等官二等トナル
仝 二十六年	五月二十日	補海軍衛生會議々長
仝 二十七年	七月二十五日	清國ト開戰
仝 二十八年	五月十五日	敍勲三等賜瑞寶章
	八月二十日	明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ勲二等旭日重光章及年金五百圓ヲ授ケ賜フ
仝 三十年	四月一日	補海軍省醫務局長
	十月三十日	敍從四位
仝 三十二年	二月二十一日	陞敍高等官一等
仝 三十三年	五月九日	依勲功特授男爵
	仝 日	特旨ヲ以テ華族ニ被列
	仝 十四日	佛國巴里ニ於テ萬國醫事會議開設ニ付委員

不二納

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

仝 三十四年	仝 十一月二十四日	トシテ參列被仰付 御用有之英佛独墺及露國ヘ出張被仰付 歸朝
仝 三十五年	十二月二十七日	明治三十三年清國事変ニ於ケル功ニ依リ金五百圓ヲ賜フ 敍正四位
仝 三十七年	二月六日	露國ト開戰 大本營海軍醫務部長被仰付
	仝 十一月	
	十一月二十九日	敍勲一等授瑞寶章
仝 三十八年	十二月十三日	豫備役被仰付
	仝 日	貴族院令第一條四項ニ依リ貴族院議員ニ任ス
	仝 二十五日	敍從二位
	仝 日	特旨ヲ以テ位一級被進
仝 三十九年	四月一日	明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ功二級金鵄勲章授與

海軍

仝 四十年	九月二十一日	年金千圓及旭日大綬章ヲ授ケ賜フ 依勲功特陞授子爵
大正 三年	十二月二十八日	敍正二位
仝 五年	四月一日	大正三四年事件ノ功ニ依リ金千五百圓ヲ賜フ
仝 八年	二月十一日	多年貴族院議員ノ職ニ在リテ勲勞不尠依テ金杯一箇ヲ賜フ
仝 十年	十一月十一日	海軍軍醫中將ト改稱
	九月二十二日	大正四年乃至九年事件ノ功ニ依リ金杯一箇ヲ賜フ
仝 十四年	一月十四日	敍從二位
昭和 二年	三月十五日	八十歳ノ高齡ニ付御紋付銀杯並ニ酒肴料ヲ賜セラル
仝 三年	十一月十日	金杯一箇ヲ賜フ

不二納

美濃全紙十三行罫紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

族籍 鹿兒島縣華族　生年月日 嘉永元年三月廿日

舊藩名 藩氏名　戸主 男爵實吉安純

本籍

現住所 麻布區鳥居坂町九番地

年号	月	日	任免賞罰	廳名
慶應二	冬		藩命ニ依リ京都守衛隊附醫師トナル	
明治元	一、		鳥羽口ニ於テ戰役ニ從事ス爾後鹿兒島藩外城一番隊附醫師トシテ同年六月ヨリ越後口征討軍ニ從事シ出雲ノ新發田等ノ戰時病院ニ勤務シ米澤ヲ經テ最上ニ至リ山形附近ニ於ケル戰爭ノ負傷者ヲ治療シ次テ鶴岡ニ繰込ミ同年十一月凱旋ス後チ軍功ニ依リ扶持米年額六石ヲ受ク	
	一二、二〇		十三等出仕申付候事　海軍病院分課	兵部省
	◆		醫局當直申付候事	海軍病院
五	二、二〇		横濱假病院出張申付候事	〃
	四、一四		海軍省十三等出仕申付候事　病院分課	海軍省

貴族院

	六、五		副當直申付候事	海軍病院
	七、五		十二等出仕申付候事	海軍省
	一〇、三〇		軍醫寮十二等出仕申付候事	〃
	一一、一四		任海軍軍醫副	〃
	六　三、二		兵學寮出勤申付候事	〃
	一一、七		兵學寮出勤差免候事	〃
	八		副當直醫申付候事	軍醫寮
	一二、三		當直醫申付候事	〃
	七　三、五		助教兼勤申付候事	〃
	三、九		任海軍中軍醫	〃
	四、一八		大坂丸乘組被仰付候事	太政官
	五、八		少軍醫小田素行代トシテ更ニ大坂丸乘組被仰付候事	海軍省
			北海道樺太千島青森灣等ニ航行シ九月下旬歸朝	〃
	一〇、四		大坂丸乘組被ゝ免候事	〃
	五		學舍長被仰付候事	軍醫寮

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

八	六、三〇	敍從七位	太政官
九	六、一七	明十八日朝鮮國修信使歸國ニ付送船乘組被仰付候事	
		但委細ノ義ハ外務省ヘ承合可致候事	海軍省
		同月廿八日ハ釜山浦ニ着ス朝鮮國王ヨリ人參其他數品ヲ送クル七月六日歸京	
	七、一七	當直醫被仰付候事	軍醫寮
	八、三一	任海軍大軍醫	太政官
	九、二	海軍本病院出勤被仰付候事	
	九、二〇	敍正七位	太政官
一〇	二、二二	御用有之神戸出張被仰付候事	海軍省
	三、二	福岡表ヘ出張被仰付候事	
	三、七	征討軍團本營附被仰付候事	征討總督本營
		福岡軍團病院ニ於テ傷者ヲ治療ス四月五日久留軍團病院ニ轉勤ス同月九日高瀬軍團病院ニ轉勤同月廿五日熊本軍團病院ノ重傷病室ニ勤務ス	

貴族院

一一	五、一	征討第四旅團醫附被仰付候事	
		鹿兒島ニ到リ第四旅團病院本部ニ勤仕シ同所軍團支病院第三區病室ヲ擔當シ創者ヲ施療ス六月三十日第四旅團ニ從ヒ日向大隅豐後ノ三洲各所ニ轉進シ九月十一日鹿兒島ニ到リ最後ノ攻擊ニ至ルマテ第四旅團大繃帶所ニ勤務シ同團ト共ニ日薩隅豐ノ四洲ヲ進捗シ每戰負傷者ヲ擔任施療シ兼テ醫務ヲ理ス九月廿七日凱旋ノ際假リニ近衞第二聯隊ニ附屬シ同月廿九日神戸ニ着同隊ノ醫事ヲ陸軍軍醫ニ引續キ十月三日同地ヲ發シ同月九日歸京ス	太政官
	六、三	任海軍少醫監	
	六、二八	鹿兒島逆徒征討ノ際醫力不少候ニ付勤五等ニ敍シ年金百圓下賜候事	
一二	七、一八	依願免本官	〃
	七、一九	海軍生徒申付候事	海軍省

〃	醫學修業トシテ英國留學申付候事		〃
	七月廿六日發程		
一六	一、	英國王立外科學校ニ於テ外科學位メンブル、オフ、ロヤル	
		コレージ、オフ、ソルゼオンス、オフ、イングランドヲ得	
	四、	龍動王立内科校ニ於テ内外科及產科ノ學位ライセンシエート・オフ・ローヤル・コレージ・オフ・ヒジシアンス・	
		オフ・ロンドンヲ得	
	五、	英國醫術開業記簿ニ署名ス	
一八	六、	英國王立外科校ニ於テ高等學位フエロー・オフ・ローヤル・コレージ・オフ・ソルゼオンス・オフ・イングランドヲ得	
		九月廿二日歸朝	
一〇、一九		任海軍軍醫中監	太政官
		軍醫學舍出勤被仰付	海軍省
一一、二六		敍正六位	太政官
一九	一、二九	海軍軍醫學舍出勤被免	海軍省

賞族院

		補衞生部衞生會議議員	海軍省
		海軍軍醫學舍兼勤被仰付	〃
四、	一	恩給調査委員被仰付	〃
四、	一二	海軍軍醫學舍兼勤被免	〃
		免本職補海軍軍醫學舍教官兼衞生會議議員	〃
四、	二九	補海軍軍醫學校教授兼監事兼衞生會議議員如故	〃
五、	二六	兼任警察醫長	内閣
		敍奏任官三等	〃
七、	一二	檢疫委員ヲ命ス	警視廳
七、	一三	任海軍軍醫大監 敍奏任二等（改正付）	
七、	三一	避病院長依囑	東京府知事
八、	一一	免兼職	海軍省
八、	一三	教務主任被仰付	醫學校
一〇、	一二	士官學校檢査規格取調委員被仰付	海軍省
一〇、	二七	中央衞生會委員ヲ命ス	内閣

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一二六、二	臨時士官學術檢査委員被仰付	海軍省	
二〇 一、一九	士官學術檢査規格取調委員被免	〃	
	臨時士官學術檢査委員被免	〃	
一、二二	東京慈惠醫院次長貴官ヘ被仰付候旨皇后陛下御沙汰ニ付	皇后宮職	
	此段及御達候也		
三、五	常備小艦隊士官學術檢査委員被仰付	海軍省	
七、一	恩給調査委員被免	〃	
八、一八	明治廿一年士官學術檢査規格取調委員被仰付	〃	
二一 二、四	明治廿一年士官學術檢査規格取調委員被免	〃	
〃	明治廿一年士官學術檢査委員被仰付	〃	
三、三一	高木醫學校長出張不在中同校長代理被仰付	〃	
五、二五	日本藥局方調査委員ヲ囑託ス	内務省	
六、二八	明治廿一年士官學術檢査委員被免	海軍省	
七、一四	士官學術檢査規格改正案調査委員被仰付	〃	
一〇、二五	士官學術檢査規格改正案調査委員被免	〃	
	貴族院		
二二 三、一四	陞敍奏任官一等	内閣	
四、二〇	海軍衛生部官制廢止海軍衛生會議條例公布		
〃	海軍醫學校官制廢止海軍軍醫學校官制公布		
四、二二	補海軍軍醫學校長兼海軍中央衛生會議議員	海軍省	
四、二五	兼補海軍軍醫學校教官	〃	
一一、二九	明治廿二年八月三日勅令第百三號ノ旨ニ依リ大日本帝國憲法發布記念章ヲ授與ス	賞勳局	
二三 一、一五	明治廿三年士官學術檢査委員被免仰付	海軍省	
七、一	明治廿三年士官學術檢査委員被免	〃	
七、一三	清潔法施行ニ付大阪府兵庫縣ヘ出張ノ義囑託ス	内務省	
八、一二	士官學術檢査規格改正調査委員被仰付	海軍省	
一〇、一四	士官學術檢査規格改正調査委員被免	〃	
一一、二七	敍勳四等賜瑞寶章	賞勳局	
二四 三、二五	明治廿四年士官學術檢査委員被仰付	海軍省	
三、三一	依願免兼官	内務省	

四、一	敍從五位	内閣	
八、一六	ヨリ俸給令改正ニ依リ一級俸トナル		
八、二四	明治廿年勅令第十三號學位令第三條ニ依リ茲ニ醫學博士ノ學位ヲ授ク	文部省	
一一、一四	四等官トナル		
三、二二	海軍大演習總指揮官附軍醫官被仰付	海軍省	
八、六	任海軍軍醫總監	内閣	
	補海軍中央衛生會議議長	〃	
九、二六	敍正五位		
一〇、	醫務衛生視察トシテ吳、佐世保、江田島ヘ出張		
一一、一四	二等官トナル　十一月廿日ヨリ施行		
五、二〇	海軍中央衛生會議廢セラル		
	補海軍衛生會議議長	内閣	
三、一五	海軍軍醫總監實吉安純歸省願允可ス	海軍大臣	
四、八	歸京		

貴族院

四、九	除服出勤被仰付	海軍省	
八、八	戰時負傷者治療準備實視ノ爲メ各鎭守府ヘ出張被仰付	〃	
九、二〇	衛秘第二〇號實吉海軍軍醫總監佐世保ヘ出張ノ件ヲ認許ス		
〃	佐世保ヘ出發		
九、二二	貴官ハ佐世保軍港ニ出張シ戰時醫務衛生ノ事ヲ監督スヘシ但監督上ニ關シ必要ノ場合アルトキハ佐世保司令長官ニ協議ス可シ	海軍大臣	
一〇、七	戰時醫務衛生視察トシテ聯合艦隊所在地ヘ出張被仰付	内閣	
	十月九日佐世保軍港出發同十一日朝鮮國大同江ヘ着視察濟ノ上同十八日同地出發十月廿一日佐世保軍港ヘ歸着		
一〇、二二	其官佐世保ヘ歸着ニ付テハ戰時醫務衛生視察復命ノ爲メ廣島ヘ出張スヘシ	海軍大臣	
一二、廿七	其官公務ノ都合ヲ見計ヒ廣島ヘ出張スヘシ	〃	
三、七	戰時醫務衛生視察トシテ旅順口大連灣威海衛常備艦隊ノ		

		進向地及根據地等ヘ出張被仰付	内閣
		三月十五日佐世保出發澎湖島ヘ出張四月八日佐世保ヘ歸着	
四、一〇		其官佐世保ヘ歸着ニ付テハ戰時醫務衛生視察復命ノ爲メ廣島ヘ出張スヘシ	海軍大臣
四、一五		宇品出港大連灣旅順口威海衛ヘ出張五月二日佐世保ヘ歸着	
五、三		其官佐世保ヘ歸着ニ付テハ戰時醫務衛生視察復命ノ爲メ京都ヘ出張スヘシ	
		五月四日佐世保發同七日京都着同十日復命濟ノ上京都發同十四日佐世保ヘ歸着	
五、一五		敍勳三等賜瑞寶章	賞勳局
六、四		歸京スヘシ　六月六日佐世保發同十日歸京	海軍大臣
七、一〇		武功調査委員ヲ命ス	海軍省
八、二〇		敍勳二等授旭日重光章	
		明治廿七八年戰役ノ功ニ依リ勳二等旭日重光章及年金五百圓ヲ授ケ賜フ	賞勳局

貴族院

一一、一八		明治廿七八年從軍記章條例ニ依リ海軍大臣ノ奏請ヲ允シ	
		明治廿七八年從軍記章ヲ授與ス	賞勳局
三〇	三、三〇	勅令第六十號ヲ以テ海軍衛生會議條例ハ明治三十年三月廿一日限リ廢止	
四、一		補海軍省醫務局長	内閣
六、一一		露西亞國皇帝陛下ヨリ贈與シタル神聖「スタニスウス」星章附第二等勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス	賞勳局
一〇、三〇		敍從四位	宮内省
一一、一八		日清戰役海軍衛生史編纂委員長被仰付	海軍省
一二、二七		海軍軍醫官藥劑官採用委員長被仰付	〃
三一	一、二五	鹿兒島縣下六大路線道路開鑿費トシテ金百圓餘寄付ニ付木杯一組下賜	賞勳局
三二	二、二一	陞敍高等官一等	内閣
三三	五、九	依勳功特授男爵	

		特旨ヲ以テ華族ニ被列	宮内省
	五、一四	佛國巴里府ニ於テ萬國醫事會議開設ニ付委員トシテ參列	
		被仰付	内閣
		御用有之英佛獨墺及露國ヘ出張被仰付	〃
三四	一一、二八	六月十五日新橋發三十三年十一月廿四日歸朝 海軍軍醫官藥劑官採用委員長被免 爰ニ從四位勳二等醫學博士男爵實吉安純氏本社忠愛ノ主旨ニ協同セラレ特ニ其功勞アルヲ以テ社則ニ照シ推薦シテ特別社員ニ列ス	海軍省 海軍省
	〃	社事ニ盡力セラレ其功績顯著ナルヲ以テ本社有効章社員章條例ニ據リ上奏裁可ヲ經テ有効章ヲ贈與ス	日本赤十字社總裁 〃
三五	一二、廿七	明治卅三年清國事變ニ於ケル功ニ依リ金五百圓ヲ賜フ	賞勳局
	五、一〇	明治卅三年從軍記章條例ニ依リ海軍大臣ノ奏請ヲ經テ明治三十五年四月十九日勅定ノ從軍記章ヲ授與ス	〃
	一二、二〇	敍正四位	宮内省
三七	二、一一	大本營海軍醫務部長被仰付	内閣

貴族院

	一〇、二	戰時醫務衛生視察トシテ四鎭守府、戰地及竹數要塞部假根據地防備隊ヘ出張十一月六日歸京	
	一一、二九	敍勳一等瑞寶章	賞勳局
	一一、五	戰時醫務衛生視察トシテ五鎭守府ヘ出張同廿九日歸京	
三八	一二、一三	豫備役被仰付	内閣
	〃	貴族院令第一條第四項ニ依リ貴族院議員ニ任ス	
	一二、二五	特旨ヲ以テ位一級被進	
		敍從三位	
三九	一、一〇	族籍變更届出　東京府	
	四、一	敍功二級授金鵄勳章	賞勳局
	〃	授旭日大綬章	〃
		明治卅七八年戰役ノ功ニ依リ功二級金鵄勳章茲ニ年金千圓及旭日大綬章ヲ賜ハル	〃
四〇	九、二一	依勳功特陞授子爵	爵位局
大正元	八、一	明治四十五年勅令第五十六號ノ旨ニ依リ韓國併合記念章	

		念章ヲ授與セラル	
三	一二、二八	敍正三位	賞勳局
四	一一、一一	大正四年勅令第一五四號ノ旨ニ依リ大禮記念章ヲ授與セラル	賞勳局
五	四、一	大正三四年事件ノ功ニ依リ金千五百圓ヲ賜フ	〃
八	二、一一	多年貴族院議員ノ職員在リテ勳勞不尠依テ金杯一箇ヲ賜フ	〃
	九、二二	海軍軍醫中將　勅令第四百廿七號ヲ以テ官名改正	
	〃	大正四年乃至九年事件ノ功ニ依リ金杯一箇ヲ賜フ	〃
一四	一、一四	敍從二位	宮内省
一〇	七、一	大正十年勅令第二百七十二號ノ旨ニ依リ第一回國勢調査記念章ヲ授與セラル	賞勳局
昭和二	三、一五	八十歳ノ高齡ニ付御紋付銀杯竝ニ酒肴料下賜セラル	
三	一一、一〇	金杯一箇ヲ賜フ	賞勳局
〃	〃	昭和三年勅令第百八拾八號ノ旨ニ依リ大禮記念章ヲ授與セラル	

貴族院

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

海秘人第六六號

昭和七年三月二日

海軍大臣大角岑生

内閣總理大臣犬養毅殿

故實吉海軍軍醫中將叙位ノ件別紙

上奏書進達ス

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

立案 昭和七年三月三日
決裁 昭和 年 月 日

當番高等官

書房宿直

故海軍軍醫中將從二位勳二等功二級子爵實吉安純
特旨ヲ以テ位一級追陞セラル
昭和七年三月三日
從二位勳一等功二級子爵實吉安純
敍正二位 昭和七年三月一日

宮内省

右之通本日 宣下相成候條此旨及傳達候位記竝
辭令ハ追テ可及回送候也
昭和七年三月三日

宗秩寮總裁

海軍大臣

264

めくれず

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一七三一四

一故海軍軍令部中將從二位重茂功績ニ付位記賞金下賜

右特旨ヲ以テ敍位相成候ニ付位記竝辭令及回送候

條傳達方御取計有之度候也

昭和七年三月四日

宗秩寮總裁子爵伯爵石渡敬

海軍大臣

宮内省

265

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp